

2017ぎふ平和のつどい

ニュース 第1号

2017年5月発行

「2017 ぎふ平和のつどい」
実行委員会 編集
(委員長:安藤征治)
事務局:「岐阜・九条の会」
(岐阜県教育会館3F 304号)

今年も11月3日(祝)、講演は絵本作家のきむらゆういちさんです！

若葉薫るたいへん早い季節になりました。皆さんお元気ですか。ご存じのように、憲法施行70周年記念日に、安倍首相は改憲の意思を改めて強く表明しました。憲法第9条をそのままにして、自衛隊を認め、高等教育無償化も書き込むように、2020年までに憲法を変えようとしています。自民党改憲案では、第2項を削除して「国防軍」を置くことを提案し、これを引っ込めていません。

なにかおかしいですね。憲法9条は軍備を持たない、交戦権を認めないとしているのに、自衛隊を明記するというの。これはどうやら、まずは公明党や日本維新の会、民進党(一部議員)へエールを送るとともに、自衛隊の存在をはっきりさせて、国民の批判が強い海外派兵・武力行使を大っぴらに可能にしようとするものです。平和を願う私たちの気持ちを無視するものです。

こうした方向に対して、武力でほんとうに平和はやってくるのかを、私たちは考え、話し合いたいと思っています。そうした機会として、今年も<ぎふ平和のつどい>を、憲法公布記念の11月3日に行います。

今年の記念講演は、絵本作家のきむらゆういちさんを迎えて行います。きむらさんは国語の教科書にも採用されている名作『あらしのよるに』の作者で、子どもたちだけでなく、大人も、海外でも知られている人です。また、ウェブマガジン「マガジン9条」発起人の一人で、憲法9条の大切さも語られています。

今まで憲法や経済の専門家などを多くお招きしましたが、今年はまったく異なった分野の方に来ていただくことになりました。どうか、たくさんの方と連れだって参加して下さいませます。

2017 ぎふ 平和のつどい
2017年11月3日(祝) 13:30~16:00
会場:岐阜市民会館大ホール
講演:きむらゆういちさん(絵本作家)
『あらしのよるに』 と、私がおもう平和



<きむらゆういち(木村裕一)さん> プロフィール

1948年4月 東京都生まれ。多摩美術大学卒業。造形教育の指導、テレビ幼児番組のアイディアブレインなどを経て、絵本・童話作家に。

『あらしのよるに』(講談社、絵・あべ弘士)で講談社出版文化賞絵本賞、産経児童出版文化賞、同舞台脚本で斎田喬戯曲賞受賞。同作品は映画化、アニメ化もされ、東宝映画版では脚本を担当。同映画は、「日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞」を受賞。さらに、中村獅童主演で「新作歌舞伎」も公演され、いまや300万部を超える大ベストセラー作品です。

このほか、『オオカミのおうさま』(偕成社、絵・田島征三)で第15回日本絵本賞受賞。絵本・童話創作に加え、戯曲やコミックの原作・小説など広く活躍中。著書は600冊を超え、『あらしのよるに』、『あかちゃんのおそびえほん』シリーズはじめ、数々のロングセラーは国内外の子どもたちに読み継がれています。さらに今年、大人のための絵本『そのままのキミがすき』『あなたなんてだいぎらい』を刊行され、評判になっています。

今年のもつどい実行委員長は、安藤征治さんです！

今年のもつどい実行委員長は、安藤征治さんです。安藤さんは前岐阜市教育長で、現在、岐阜モンゴル交流協会会長もされ、教育分野だけでなく、広く平和・友好の活動を行っておられます。皆さんの懇請を受けとめていただき、今回3度目の委員長を引き受けて下さいました。

なお、「岐阜・九条の会」が事務局を担当し、副実行委員長は吉田千秋さん、事務局長は魚次龍雄さんという体制で運営していきます。ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

「2017 ぎふ平和のつどい」の開催に当たって

実行委員長 安藤征治



「平和とは---?」「平和な社会を築くために、私に出来ることは---?」と、時に自分に問いかけてみたいと思います。そして、今がその時ではないかと思うのです。

平和を考える市民集会、「ぎふ平和のつどい」の開催も9回目を迎えます。

これからの社会のあり様を考えた時、キー・ワードは「多様性」と「共生」であると思います。生きものが生存し続けるためには、この2つが必要条件です。互いに違いを認め、共に生き合うことの出来る社会こそが、正常な社会であると思います。「あらしのよるに」出会ったオオカミとヤギ、この二者の生き様に学びながら、平和について多くの皆さんと共に考えてみたいと思います。

「あらしのよるに」夢はふくらむ

子どもにも大人にも愛され、ロングセラーを続けている『あらしのよるに』。作者のきむらさんのお話が聴きたい、作品を群読したいと言い出した願いが実現することになった。なんとという幸せ。この物語には和楽器の音色が似合うと思う。和太鼓と篠笛の演奏家のお二人に加わっていただくこともトントン拍子で決まった。さあ、あとはどのような群読にするのかが大きな課題。ただいま、構成のイメージをふくらませ、知恵をしぼっている最中である。

あらしのよるに出会ったオオカミとヤギは、互いの姿が見えないまま(それぞれが味方だと思い込んで)語り合い、心をかよいあわせる。晴れた翌日、二匹は待ち合わせて思い違いに気づく。しかし、二匹は、食うか食われるかの立場を越えての友だちづきあい始める。やがて仲間たちの知るところとなり、第七話の完結までダイナミックなストーリーが展開される。

その一連の物語の第一話、あらしのよるのできごとを今年の市民ステージで演じる。人間だって、平和を求める気持ちを持ち続けたら、姿も主義主張も違う相手ともきっと仲良くなれるはず。そんなことをオオカミとヤギから教えてもらいながら。
(浅井彰子 「群読」構成・演出 担当)

きむらゆういちさんのお話を聞くのが楽しみです

薬局の待合室でふとテレビをみたら、中村獅童さんが「あらしのよるに」を歌舞伎で演じた思いを語っていました。(→写真参照) きむらゆういちさんの思いを自分なりに受け止め、相手を思う気持ちがあれば、争いも起きない平和な世界になるとの思いで演じてみえました。わかりやすい歌舞伎で、是非みたいと思いました。

そしてこの秋に、絵本作家のきむらゆういちさんのお話が聞けるので、とても楽しみにになりました。
(井平美恵子 「岐阜・九条の会」)



敵対する者同士が心を通わせる世界・「あらしのよるに」を読んで

この世には天敵というものがある。山羊にとってのオオカミ。これは本能的なものである。人間世界では民族、宗教など文明文化の対立から生まれた憎悪が似たものとしてある。人間の世界の敵対する者同士が心を通わせる。これを動物の世界に仮託して描いたのが「あらしのよるに」であろう。

二匹はお互いの正体を知らず心を通わせる。そこには自然の猛威の前ではただ、互いに温め合う命だけがある。このようなことは人間の世界では時としてありうることだろう。敵対する民族間で敵同士であっても、個人として同じ状況に置かれたら、あっても不思議ではないと思う。このような設定は小説、映画のテーマとしてよく語られる。

心と心の結びつきだけが支配する理想の世界、いってみれば、極楽浄土の世界といえようか。ガブとメイはそんな世界に入り込んだ。いわば無知なるがゆえの浄土世界である。二匹はこの「友情」を最高の価値とする。この物語はこれで完結しているともいえる。

(牧野光陽 「さぎ山、ときわ九条の会」)

*絵本『あらしのよるに』は、単行本(第1巻)と、その後刊行された7巻までを収めた『完全版 あらしのよるに』があります。オススメは後者です。全体の流れがわかりますし、お値打ちですから。